

札幌駅前周辺のエリアカラーに関する基礎的研究

A study of area color around Sapporo station

北海学園大学工学部土木工学科 ○学生員 瀬川由貴 (Yuki Segawa)
北海学園大学大学院工学研究科 学生員 竹澤晋一 (Shinichi Takezawa)
北海学園大学工学部土木工学科 正 員 上浦正樹 (Masaki Kamiura)

1. はじめに

1.1 背景

鉄道駅は、都市と都市を結ぶ鉄道輸送の拠点であり、街の交通結節点として存在している。そのことから、鉄道駅は必然的に都市と密接な関係を持ち、独自の発展を遂げてきた。また、旅行者などは駅に降り立ってはじめて、その街の雰囲気に触れることができ、駅は都市の玄関として象徴的な存在になりえ、都市を代表する公共建築物の一つでもある。

以上の理由から、駅を中心とした街並みの調和を考慮すると、利用客や旅行者へ与える印象や雰囲気などの様々な要因の一つとして色彩に関する考え方がある。京都市や神戸市等の特定の地域に関しては、条例などにより規制が行われているが、札幌市に関してはこういった取り組みはなされていない。鉄道駅がその街に違和感なく存在するように、周辺の建物から色彩について考えていく。

1.2 研究の目的

都市景観における色彩は視覚的に重要な要素であり、色彩について何らかの規制を行っている自治体が多い。

どの都市でもその街を象徴する色(エリアカラー)があり、その色を知ることにより、その街の特徴や文化、歴史なども知ることができる。このことから新しく公共建築物を建てる場合に、その街に違和感なく受け入れられる色彩を探ることを目的とする。

1.3 既往研究

本研究の目的に関する既往研究等は蓄積が少なく、現状では、経験的・試行的に決められていることが多いが、都市景観における色彩の様相、心理効果などの研究が行われてきている。

街路景観のまとまり感について、木多ら¹⁾の研究に、総合的な良さや快適性などの価値評価は、高明度の無彩色に揃えると高くなり、寒色に揃えると低くなるという結果が得られている。

また、予備調査ではカメラを用いて撮影するために志水ら²⁾の撮影方法を参考にした。

2. 研究の概要と方法

2.1 研究の概要

札幌駅周辺の色彩を把握し、どういう色が使われているかを分析するために札幌駅周辺のエリアカラーの調査を行なう。また、札幌駅周辺に公共建築物が新しく建設される際に、現在の風景に調和するような色彩について分析する。

2.2 研究の方法

研究の方法としては、札幌駅周辺の建物について 130 色³⁾を基本色として色分けをした。130 色の内訳は、有彩色 120 色は横方向に色相順、縦方向にトーンで分類し、無彩色 10 色と合わせて計 130 色とした。色相は、マンセル・システムに準拠した 10 色相を用いて、トーン分類では、派手(1~20)、明るい(21~50)、地味(51~90)、暗い(91~120)と大きく分け、さらに細分化したのとした。

まず、予備調査では札幌駅の北側を南側の差があるかどうかについて調査をし、その結果から本調査では、南側だけについて調べた。なお、予備調査は広範囲のデータが必要だったためデジタルカメラを使用し、本調査では細かい色彩の違いを識別するために、実際に一つ一つの建物について現地で調査することにした。

3 予備調査

3.1 予備調査の内容

平成 12 年 11 月 10 日(金)午前 10 時~午後 2 時で晴れの日に実施した。

札幌駅前周辺の写真を既往研究に習いデジタルカメラで撮影し、その写真に写っている建物について 130 色を基本色として色分けをした。写真の枚数は 98 枚でそのうちの 25 枚・76 棟が札幌駅北側、残りの 73 枚・276 棟が南側の建物で分析及び考察する。

3.2 予備調査の結果

130 色の色分けをした結果、北側と南側では建物の数に差があるので、それぞれについて標準化をした。最も多かったのは、北側、南側共に白色であった。次に多かったのは、北側では象牙色、南側ではライト・オリーブ・グレーとえび茶という結果になった。130 色の中ではバラツキがでたため、色相によって分析したところ、両方とも同じような結果が得られた(表 1-1)。

表 1-1 からわかるように、北側と南側の多い色相は一致しており、両方とも無彩色が一番多く、続いて R、YR、Y という順になった。このことから、上位 4 つの色相は北側が 78.5% を占め、南側が 83.0% と大多数を占めているので北側と南側の差異は少ないとみなし、本調査では南側だけを対象とする。

表 1-1 色相による北側と南側の比較

色相	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	無彩色
北側(%)	19.0	12.7	10.1	1.3			2.5	3.8	5.0	8.9	36.7
南側(%)	22.5	15.2	11.6		0.4	1.4	3.3	4.7	4.0	3.3	33.7

4. 本調査の概要

4. 1 本調査の内容

平成 12 年 11 月 24 日(金)午前 10 時～午後 2 時で晴れの日に実施した。

予備調査の結果から、札幌駅の南側だけを調査区域とし、建物の色について調査した。

札幌駅を中心に駅が見える範囲の半径 600m 以内で線路より南側(図-1)の建物 176 棟について、建物の数別に色分けをした(表 1-2)。建物の数だけでは高層建築物と 1、2 階建ての建物など、都市の中で占める色の割合が異なると考えられるため、地図上の建物の大きさから道路に面している部分を計算し、それに階数を掛けて表面積を求め標準化し、表面積別の表もあわせて作成した(表 1-3)。



図-1 本調査の範囲

表 1-2 建物の数による色分け

R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	無彩色
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	121
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	62
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	123
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	11
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	24
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	5
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	6
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	226
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	129
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	13
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	1
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	14

4. 2 本調査の結果

表 1-2 と表 1-3 を比べると色相は同じでも、トーンが多少ずれているのがわかる。

表 1-3 から、最も多かったのは 122 番のパール・グレ

表 1-3 表面積による色分け

R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	無彩色
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	122
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	533.6
21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	23
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	24
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	125
51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	199.6
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	126
71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	127
81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	31.6
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	128
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	228.1
111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	129
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	23.4
131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	130
141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	12.6

表 1-4 色相別の表面積

色相	R	YR	Y	GY	G	BG	B	PB	P	RP	無彩色
表面積(㎡)	882.2	814.2	559.7	1.0	1.2	49.0	81.2	11.8	185.1	249.0	1338.6

であった。続いて、42 番の白茶、43 番の象牙色という結果が得られた。だが、色相によって分析したところ予備調査と同じように、無彩色が最も多く、続いて R、Y R、Y という結果が得られた(表 1-4)。

5. おわりに

5. 1 結論

以上の結果から、無彩色が多く、暖色系と寒色系に分類すると暖色系が多いことがわかった。これは、北国である札幌は寒色よりも暖色の方が、寒い冬でも暖かさを感じられるからであると考えられる。

今回の調査から、札幌駅周辺のエリアカラーは無彩色が一番多く、その次に多いのは R、Y R、Y という順番だった。このことから暖色が多く、GY、G が最も少なく寒色系の建物は少ないことがわかった。これは既往研究からも言えることで、札幌駅周辺のエリアカラーは高明度の無彩色と暖色が多いので、新しく公共建築物を建てる場合には、高明度の無彩色や暖色を使うと札幌駅周辺に違和感なく受け入れられると考えられる。

5. 2 今後の研究課題

本研究では、壁の色だけに着目したためテクスチャーや材質については考えなかったため、今後の研究課題としていきたい。

参考文献)

- 1) 木多道宏、他 4 名：都市景観における色彩の心理効果、日本建築学会計画系論文集、No.522、239-246、1999
- 2) 志水英樹、他 2 名：大都市において銀行建築が構成する街並みの物的属性について、日本建築学会計画系論文集、No.375、1987
- 3) 小林重順：カラーリストー色彩心理ハンドブックー